

石川県漁海況情報

401号
2018年4月27日発行

石川県水産総合センター 電話 0768-62-1324 FAX 0768-62-4324
ホームページ <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/suisan/center/sigenbu.html>
携帯電話 http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/suisan/center/sigenbu_files/p-index.html



本号の概要

スルメイカの漁況の見通し（予報期間:5月～7月）

- 石川県沿岸の小型イカ釣りによる水揚量は前年および過去5年平均並みになる見込みです。
- 日本海沿岸の水揚量は前年並みで、過去5年平均を下回る見込みです。

水産総合センター・トピックス

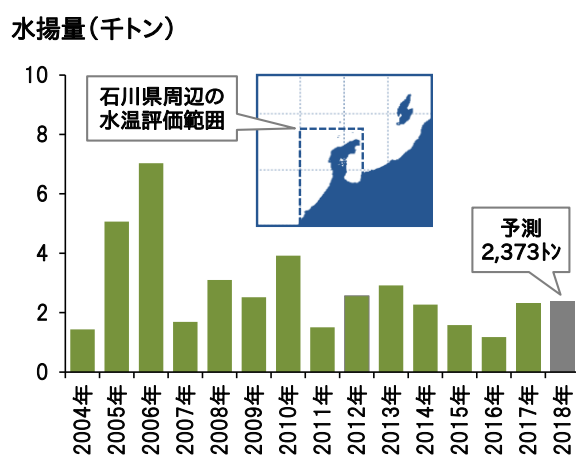
- 「3年ぶりに天然トリガイの操業が始まりました」「性転換するアマエビのふしぎ」

スルメイカの漁況の見通し（予報期間:5月～7月）

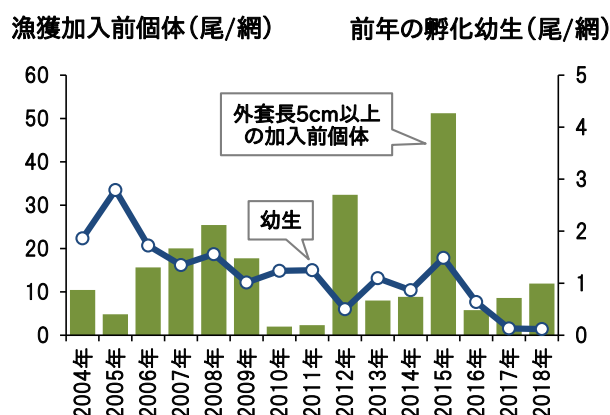
■ **石川県沿岸** 5月中旬の石川県周辺海域の50m深水温が低い年ほど5～7月のスルメイカの水揚量が多くなる傾向にあります。水温が低いとイカの北上が遅くなり、本県沿岸で長期間にわたって漁場が形成されるためと考えられます。海況数値モデルでは、今年5月中旬の50m深水温は前年並みと予想されています。水温と水揚量の関係式から、今期の小型イカ釣りによる水揚量は2,373トンと見積もられ、前年(2,312トン)および過去5年平均(2,053トン)並みになると予想されます。

■ **日本海沿岸** 漁獲加入前のスルメイカ(外套長2～10cm程度)の分布量を調べるため、石川県水産総合センター・富山県水産研究所・日本海区水産研究所は4月に日本海で表層トロール調査を行いました。調査時に外套長5cm以上であったイカが5～7月の漁獲対象になります。外套長5cm以上のイカの調査点当たりの平均採集尾数は11.6尾であり、前年(8.6尾)を上回ったものの過去5年平均(16.5尾)を下回りました。昨年秋の孵化幼

小型イカ釣りのスルメイカ水揚量(5～7月)



スルメイカ分布量調査の結果



生調査では、調査点当たりの平均分布密度は0.12尾と前年(0.13尾)並みに低く、過去5年平均(0.84尾)を下回っており、今期漁獲されるイカの孵化量は資源が低かった1980年代の水準にまで落ち込んでいます。以上から、今期の日本海沿岸への来遊量は前年並みで、過去5年平均を下回ると予想されます。一方、対馬暖流の水温は平年並みと予想されており、主な漁期・漁場は近年同様と考えられます。日本海沿岸の漁況予報(平成30年度第1回日本海スルメイカ長期漁況予報)の詳細については、水産庁の資源評価等推進委託事業のページ(<http://abchan.fra.go.jp/>)をご覧ください。

石川県周辺海域の海面水温(期間:4月19日~23日)

■ **沿岸の海面水温** 4月23日の本県周辺(海岸線より30海里程度)の海面水温は11~13℃台で、過去5年平均との差は±0.0℃程度でした。

■ **沿岸観測ブイの水温** 今期の水温は11.6~14.2℃で、4月中旬から約1.6℃上昇しました。過去3年平均との差は+0.0~+1.3℃でした。

■ **港内の水温** 今期の水温は12.3~15.1℃で、前年同時期との差は+0.4~+1.2℃、過去3年平均との差は+0.5~+1.4℃でした。

沿岸観測ブイの水温(深度10mの値)

観測位置	5日間平均 4/19~4/23	前年差	過去3年平均差
① 橋立沖	14.2	+0.8	+1.2
② 橋立沿岸	13.9	+0.5	+0.5
③ 富来沿岸	13.2	+0.5	+0.5
④ 門前沿岸	休止中	データなし	データなし
⑤ 猿山岬沖	13.4	+1.3	+1.3
⑥ 萱々木沿岸	休止中	データなし	データなし
⑦ 小泊沿岸	12.2	+0.3	+0.3
⑧ 小浦沿岸	12.1	+0.3	+0.4
⑨ 鶴川沿岸	11.6	-0.0	+0.0
⑩ 岸端沿岸	12.0	+0.5	+0.8

港内の水温(深度1.5m・午前9時の値)

観測位置	5日間平均 4/19~4/23	前年差	過去3年平均差
① 橋立港	15.1	+1.2	+1.4
② 宇出津港	12.3	+0.4	+0.5
③ 石崎港	14.0	+0.5	+0.6

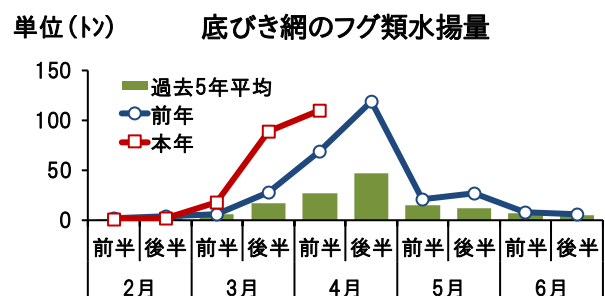
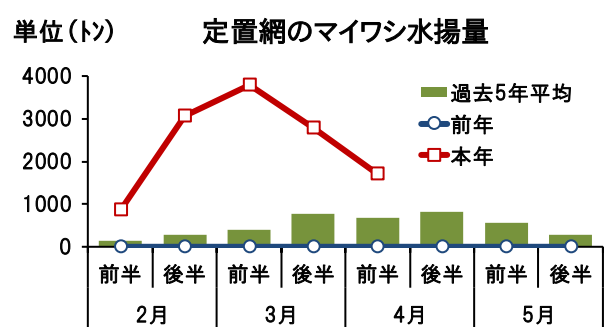
石川県主要港の水揚げ状況(期間:4月1日~15日)

■ **定置網** サバは前年を上回り、カワハギ・アマジ・スルメイカは前年を下回りました。マイワシは1,738トン水揚げされました。2月前半から4月前半の累計は12,261トンで、前年(7トン)および過去5年平均(2,239トン)を上回りました。

■ **まき網** ガンドは前年を上回り、ブリは前年を下回りました。

■ **底びき網・ごち網** ニギスは前年を上回り、アマエビは前年並み、ハタハタ・アカガレイは前年を下回りました。フグ類は110トン水揚げされました。2月前半から4月前半の累計は219トンで、過去5年平均(51トン)を上回りました。

■ **刺網・釣り・その他** アマエビは前年並み、ヤナギバチメは前年を下回りました。



集計期間 4月1日～4月15日 (水揚量の単位はトン)

魚種	水揚港							期間合計	
	橋立	金沢	富来	輪島	珠洲地区	宇出津	七尾地区	本年	前年
定置網									
まいわし			20.8		318.4	846.5	552.5	1738.3	6.1
さば			0.0		2.5	15.8	0.5	18.8	7.1
かわはぎ(ウマヅラ)			0.6		0.2	5.3	0.7	6.8	12.3
まあじ			0.1		0.8	4.2	1.4	6.5	32.9
するめいか					0.0	1.8	4.1	5.9	15.1
さわら・さごし			0.6		0.1	2.5	0.9	4.1	10.1
ふぐ類			0.1		0.0	2.8	0.6	3.5	13.3
ほっけ					0.2	0.7	2.5	3.3	
まだい			0.2		0.4	0.7	1.4	2.6	3.1
さくらます			1.4		0.0	0.0	0.1	1.6	0.5
このしろ					0.0	0.1	1.2	1.4	6.0
すずき			1.1		0.0	0.1	0.2	1.3	1.3
ひらめ			0.0		0.0	0.6	0.6	1.3	0.8
その他			0.5		1.0	2.4	6.0	9.9	86.1
合計			25.4		323.6	883.5	572.7	1805.2	194.6
まき網									
がんど	—	21.3				—	3.8	25.1	7.0
ぶり	—	18.3				—	1.0	19.3	192.1
まだい	—	3.8				—	0.4	4.2	0.4
ふぐ類	—	0.5				—		0.5	0.0
その他	—	0.0				—		0.0	0.0
合計	—	43.8				—	5.2	49.0	199.5
底びき網・ごち網									
ふぐ類	8.9	2.3	75.3	23.5			—	110.0	68.3
にぎす	2.1	24.6	16.5	0.3	0.2	0.3	—	44.0	26.6
あまえび	1.6	13.0	1.0	6.0	2.0		—	23.7	26.7
はたはた	1.8	0.2	2.9	2.3	6.1	6.2	—	19.5	37.3
あかがれい	11.7	3.0	0.4	3.8	0.2		—	19.1	31.3
まだら	0.7	0.6	0.1	3.0	0.9		—	5.3	11.5
そうはち	1.0	2.1		2.0	0.0		—	5.1	7.0
あんこう	1.2	0.7	1.2	1.8			—	4.8	6.0
すがれい(ムシガレイ)	0.3	0.5	1.1	2.3			—	4.1	4.8
その他	5.3	8.7	7.0	9.8	2.2	0.2	—	33.2	47.5
合計	34.5	55.6	105.5	54.8	11.7	6.7	—	268.9	267.0
刺網・釣り・その他									
べにずわいがに		38.1	24.0	0.5				62.6	54.4
やなぎばちめ(ウスマル)	0.1	0.1	2.5	12.4	0.0	0.1	0.1	15.3	30.7
あまえび			9.5				0.0	9.5	9.2
ぶり			0.0	7.6				7.6	7.0
ふぐ類	0.0		1.5	4.1		0.0	0.1	5.7	3.0
なまこ			0.0	0.0	0.2	2.7	1.0	3.9	1.4
あからばちめ(ハツメ)				3.5				3.5	0.7
さより				0.4	0.4	1.2	1.0	3.0	1.8
その他	1.9	1.2	6.4	12.0	1.2	8.8	8.7	40.2	56.4
合計	1.9	39.4	44.0	40.4	1.8	12.8	11.0	151.3	164.5
総計	36.4	138.9	174.9	95.2	337.1	903.0	589.0	2274.5	825.7

注:宇出津は松波港を含む、富来・輪島は一部未集計

3年ぶりに天然トリガイの操業が始まりました

■ 4月18日に七尾湾で天然トリガイの貝柙網操業が始まりました。操業が行なわれるのは3年ぶりです。

■ トリガイやアカガイは資源量の変動が大きいため、七尾湾漁業振興協議会と当センターが共同で実施する資源量調査の結果をもとに操業の可否を決めています。昨年の調査では七尾北湾でまとまった漁獲があり、今年の操業が行なわれることが決まりました。

■ 初日は10隻が6時30分から11時まで七尾北湾で操業し、トリガイ142.1kg、アカガイ10.5kgを石川県漁協七尾支所に水揚げしました。トリガイは昨年の調査結果から中サイズのものが多いと予想されていましたが、殻長90mmを超える大型のものも多く、初日はまずまずの水揚げでした。今後は水揚げの状況を見ながら6月中旬まで操業する予定となっています。



性転換するアマエビのふしぎ（3月10日公開セミナー講演概要）

■ 本県においてアマエビ（標準和名：ホッコクアカエビ）は、漁獲量が本州で第1位を誇るなど重要な水産物です。アマエビは成長につれてオスからメスへと性別を変える（性転換する）ことが知られています。

■ アマエビは主に水深200～550mの海底に分布します。アマエビは卵からふ化すると、1ヵ月間の浮遊生活を経て、着底します。そして、3歳には成熟したオスとなり、5歳後半まではオスとして、6歳になると性転換し、メスとして繁殖に参加します。交尾したメスは腹部に受精した卵を抱えたまま10ヵ月間過ごします。このアマエビが店に並ぶ“子持ちエビ”です。卵がふ化した後、1年の間隔をあけて、再び交尾を行います。メスは一生の間に3回産卵し、11歳で寿命を迎えます。

■ 2013年に漁業者から例年より小さい子持ちエビが多いとの報告を受けました。当センターで調べてみると、5歳と思われる子持ちエビが多いことが分かりました。通常は6歳でメスに性転換していますが、例年より1年早く性転換したと考えられます。

■ 1年早く性転換したメカニズムについて仮説を立てました。当センターの調査で、2010年にアマエビが特に多く発生したことがわかっています。この2010年生まれのアマエビが2013年に3歳となり、集団内で成熟したオスの割合が例年より高くなりました。このためアマエビは性比の均衡を図るため、1年早く性転換したと考えられます。しかし、アマエビが海底でどのように集団内の雌雄比を把握しているのかは分かっていません。アマエビには、まだまだ多くのふしぎが残っています。

子持ちエビ小型化のメカニズム（模式図）

